

第 70 回 全連小研究協議会北海道大会

閉会式 大会実行委員長 挨拶

全国各地からおよそ 2,500 名の校長先生方のご参加の下、大会主題、副主題の実現を目指して、2 日間にわたる北海道大会を進めて参りました。

今、ここに、その幕が静かに下ろされ、研究協議会も終了しようとしております。

昨日と今日の 2 日間、真剣に話を聞き、そして、熱く考え語り合った研究大会でありました。全国よりご参集くださいました会員の皆様、本当にありがとうございました。

全連小大会において、北海道は 8 年に一度開催されますが、函館市での開催は初めてでした。当初、分科会場と考えていた隣の市民会館が耐震化の工事のため使用できなくなり、函館駅前周辺のホテルへの変更を余儀なくされました。それに伴い、時間をかけてのバス・路面電車での移動となるなど、ご不便をおかけした点もありますが、函館市小学校長会を中心とし、チーム道小で運営を進めて参りました。

分科会では、発信性のある研究討議ができないかと考え、参加型・参画型の分科会から、実物投影機やプロジェクターを活用するなど、視覚化を取り入れ、更なる分科会の深まりを目指した運営に努めました。

先ほどの研究協議のまとめからも、すべての分科会で、校長の役割と指導性について、熱心かつ提案性のある協議が行われたことがうかがえ、分科会の充実の更なる深化を求めてきた、本大会の目的を十分に果たすことができたのではないかと考えております。

また、シンポジウムにおきましても、「ふるさと、挑戦、未来創造」をテ



ーマに、シンポジストの皆様の生き方や考え方など、多くの示唆に富むお話に、学校を経営する一人の校長として、多大な感銘を受けました。

私たちはこの大会を通して、子どもたちが高い志や意欲、そして夢と希望をもち、一人一人の個性と人と人との絆を大切にしながら、ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて挑戦していく、そのような学校経営を目指してきました。

今回、参加された校長先生お一人お一人の高い意識が、大会を更に意義深いものにしたことと思います。本研究協議会の成果が参加された校長先生を通して全国の各学校に還流され、明日からの学校経営に活かされていくものと確信しております。

昨年、佐賀大会の閉会式のご挨拶の中で、下川大会実行委員長が次期開催地の紹介としてこのような話をされました。「明治維新によって誕生した新政府から、北海道の開拓を命ぜられた鍋島直正が、島義勇を北海道に派遣しました。そして、島義勇が指揮を執り、札幌市の外形を整えました。」と。その「北海道開拓の父」と呼ばれた佐賀の七賢人の一人である島義勇は、のちに秋田県の初代知事となりました。全連小の大会も、佐賀から受けたバトンをお秋田へとつなげるとともに、秋田大会が成功されますことを心からお祈り申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催にあたり、これまでご指導、ご支援を賜りました、文部科学省をはじめ、北海道、函館市並びに両教育委員会等の関係機関、関係団体の皆様、そして、種村明頼会長をはじめ、全連小の皆様、そして何よりご参集くださいました全ての校長先生方に、心より感謝を申し上げます、お礼の言葉といたします。

2日間、本当にありがとうございました。